

渡辺復興大臣の福島県訪問ぶら下がり会見録
(平成31年1月26日(土) 11:00～11:04於) 南相馬市)

1. 発言要旨

本日は、南相馬市の原町区にあります、創イノベーション株式会社のバイオマス燃料製造実証プラントを視察してまいりました。同社は浜通り地域等におけるバイオマス活用事業を計画しており、このような取組を通じて、福島から未来の新エネ社会のモデルが創出されることを期待しております。

復興庁といたしましても、福島イノベーション・コースト構想や福島新エネ社会構想の実現に向けて、関係省庁と連携しながら全力で取り組んでまいりたいと存じます。

次に、ここ、小高区の小高交流センターの開所式典に出席をさせていただきました。内覧をさせていただきましたが、木の温もりが感じられるすばらしい施設だと思います。

今後、この小高交流センターが小高区の復興のシンボルとして、町の一層のにぎわいに寄与することを心から期待しているところでございます。

2. 質疑応答

(問) こうして今回の交流センターがオープンしましたがけれども、こういった、飯館村ですとか、小高で復興の拠点がオープンするという明るいニュースがある中、帰還している住民というのはまだ多くはないという現状もあると思います。今後、復興・創生期間も終わるといふところも控えていますけれども、復興庁として、今後どういうふうはこの帰還促進に向けて対応されていきたいと思えますか。

(答) まず復興を成し遂げていくための大きな要素というのは、帰還者を増やしていくこととあります。現在、この南相馬市、小高区においては、帰還されたのは、当初いた人口の半分ぐらいでしょうか、これを更に促進するためには、この小高交流センターのように、地域に対する魅力をどのようにアップするかということになるというふうに思います。

今回、この交流センターができたのは、まさに復興のシンボルとして、また、これから機能していくためには、子どもからお年寄りまで、多くの方がここに集っていただくことが大変重要だというふうに思います。そしてさらには、生活環境を整えていく。もう既に小高ストアがオープンしましたがけれども、そのような生活環境をしっかりと整えていくこと、また、小学校、中学校の環境

整備、そして医療、介護等といった分野についても整備していくことによって、生活する上で安心な地域づくりができていくことが、私は大変重要だというふうに思います。こういったものに全面的に私どもはバックアップをしていきたいというふうに思います。

(以 上)